

第2回ボランティアセンター運営委員会の会議報告について

表記会議を開催しましたので、ご報告します。

- 1 日 時 平成25年9月9日(月) 10時～11時45分
- 2 場 所 鶴見区福祉保健活動拠点 多目的研修室B
- 3 出席者 三谷委員長、星野副委員長、晝間委員、青木委員、渡辺委員、
須佐委員、山本委員、一柳委員、松下委員
事務局 中嶋事務局長、武田事務局次長、
担当職員(岡本・内藤・白井)

4 内容

【議 事】

1. ボランティアセンターの運営状況について

資料1に基づき事務局より説明

資料1

区社協ボランティア関係事業報告書(平成25年4月1日～8月31日)

(1)単発依頼(送迎活動を含む)								(2)継続依頼(送迎活動を含む)							
単発	依頼件数	紹介件数	調整中	調整つかず	取り下げ	紹介人数	調整数	単発	依頼件数	紹介件数	調整中	調整つかず	取り下げ	紹介人数	調整数
児童	5	3	0	0	2	10	101	児童	6	0	6	0	0	9	15
障害	29	21	2	4	2	161	211	障害	23	2	19	1	1	30	59
高齢 <small>(おおむね60歳以上)</small>	1	1	0	0	0	1	1	高齢 <small>(おおむね60歳以上)</small>	29	2	26	1	0	78	53
外国人	0	0	0	0	0	0	0	外国人	0	0	0	0	0	0	0
限定せず	3	3	0	0	0	25	47	限定せず	2	0	2	0	0	2	4
その他	3	3	0	0	0	10	63	その他	4	0	4	0	0	1	9
合計	41	31	2	4	4	207	423	合計	64	4	57	2	1	120	140

(3)ボランティア登録者

①新規登録者数(平成25年度分)

②累計登録者数(～平成25年度末)

①新規登録者(平成25年度)

②累計登録者(～平成25年度末)

区分	件数・人数	区分	件数・人数	福祉	人数	福祉	人数
グループ(団体数)	1	グループ(団体数)	59	話相手	18名	話相手	129名
グループ(会員数)A	1	グループ(会員数)A	1619	一時保育・遊び相手	11名	一時保育・遊び相手	87名
個人(男性)	13	個人(男性)	90	外出付き添い	12名	外出付き添い	76名
個人(女性)	37	個人(女性)	196	送迎	6名	送迎	36名
個人(男女合計)B	50	個人(男女合計)B	286	介助	7名	介助	46名
合計 A+B	51	合計 A+B	1905	家事援助	6名	家事援助	58名
				生活援助	5名	生活援助	39名
				施設での手伝い	13名	施設での手伝い	115名
				技術提供(福祉系)	6名	技術提供(福祉系)	50名
				環境・まちづくり・災害	11名	環境・まちづくり・災害	65名
				イベント手伝い	15名	イベント手伝い	126名
				技術提供(その他)	20名	技術提供(その他)	138名
				その他	4名	その他	28名
				決めていない	22名	決めていない	86名

【ボランティアコーディネーターにおける課題】
 ・4～5月頃は学校支援ボラの依頼が多数あったが、登録者の中からコーディネーターできず、子育てサポートシステム等の他機関を紹介するケースが多かった。
 ・要配慮のボランティア活動希望者が増えてきており、ケアプラザ等との連携が不可欠である。

ボランティア新規登録(年齢・月別比較一覧表)

年度	内訳	4月	5月	6月	7月	8月	合計
平成25年度	～22歳	1	1	1	4	10	17
	23～59歳	3	2	3	7	7	22
	60歳以上	5	1	2	2	1	11
	グループ	0	0	0	0	1	1
	合計	9	4	6	13	19	51
平成24年度	～22歳	2	3	2	4	5	16
	23～59歳	3	2	3	5	3	16
	60歳以上	6	0	5	3	2	16
	グループ	0	0	0	0	1	1
	合計	11	5	10	12	11	49

ボランティアコーディネーターについて

【委員】外出支援ボランティアについては、横浜移動サービス協会との連携も必要である。

Q1, ボランティア登録者のなかで継続的に活動しているボランティアはどれくらいなのか。

A1, 【事務局】継続的に活動しているボランティアは、登録者全体の20%程度である。

【委員】

- ・継続的な活動ができていない理由を分析し、アプローチ方法を検討する必要がある。
- ・ボランティアに何をしてもらおうかではなく、一緒に楽しんでもらうことを大切にしている。

下半期事業予定について

【事務局】当初予定にはなかったが、トレッサ横浜で実施する「ぷれジョブ」に協力することになった。

【委員】

- ・地区のお祭りはボランティアを募集しなくても人が集まる。
- ・ロコミの方が活動の楽しさが伝わり、長く活動を続けてもらえる。
- ・地域のつながりの中に、ボランティアセンターの役割をどの様に果たしていくのか検討が必要である。

上半期事業報告について

【委員】

- ・ボランティア依頼者交流会は、施設のネットワーク構築の場としてもよい機会である。参加者が少ないのがもったいない。
- ・施設としては、夕方よりも日中の時間帯の方が業務として参加しやすい。
- ・継続ボランティアのフォローやボランティアへの依頼内容について議論が必要である。

2. 善意銀行の預託状況について

資料2に基づき事務局より説明

資料2

社会福祉法人 横浜市鶴見区社会福祉協議会								
善意銀行 預託配分状況								
(平成25年4月1日～平成25年8月31日)								
1 預託金額	4月～8月		合計		昨年度同時期実績		昨年度合計	
受付区分	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
社会福祉	23	1,488,191	23	1,488,191	33	983,355	108	3,484,459
障害福祉	0	0	0	0	0	0	0	0
児童福祉	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢者福祉	0	0	0	0	0	0	0	0
特別配分	0	0	0	0	0	0	0	0
寄付小計	23	1,488,191	23	1,488,191	33	983,355	108	3,484,459
2 25度8月末通帳残高								
24年度末通帳残高	14,263,332		14,263,332					
24年度未払金(送迎サービス)	-736,160		-736,160					
平成25年度預託金額	1,488,191		1,488,191					
利息	1,490		1,490					
預託合計	15,016,853		15,016,853					
3 平成25年度配分金額								
特別配分および区社協事業への配分								
	鶴見ふれあい善意銀行		2,889,000					
	車イス購入(案)		49,000					
配分合計			2,938,000					
25年度8月末善意銀行残高			12,078,853					
(平成25年8月31日現在)								

【事務局】・車いす購入のための寄付の活用について、学校への福祉啓発のために資料する車いすを購入したい。

→審議のもと、承認された。

- ・ノーパンクタイヤでもタイヤは削れていくため、2～3年で交換が必要である。
- ・今後購入する際は、どのような方に貸出するのかを考え、種類を選択する必要がある。

【委員】

- ・寄付者数をみるといつも同じ方が寄付している。
- ・善意銀行の仕組みを知らない人が多い。仕組みが分かれば寄付したいという人もいるだろう。積極的なPRが必要である。
- ・区版広報など広報紙を活用すべきである。
- ・寄付が減ってきているということをもPRしてもよいのではないか。
- ・寄付することのメリットは何か。また、現在寄付をしている方は、なぜ寄付をしてくださっているのかをPRしてもよい。
- ・寄付したお金が何に使われているのかのPRが必要である。
- ・寄付したいと思っても、どこにどうやって寄付するのか分かりづらい。窓口に行かなければならないとなると、少額の寄付ではとても行きづらい。
- ・募金活動の方が寄付しやすいが、共同募金や日赤社資募金など募金するものも多い。
- ・自治会のイベントの際に募金箱を設置する方法もあるが、管理が大変である。

- ・鶴見区は企業が多いため、以前は企業を中心にPRをしていた。今後は、個人向けにも積極的なPRが必要である。

3. 鶴見ふれあい善意銀行の配分状況について

資料3に基づき事務局より説明。

資料3

平成25年度 鶴見ふれあい善意銀行 助成実績一覧															
区分	予算		区分別申請			予算-申請		区分別助成		会員特典	助成総額	辞退、返還		助成額(最終交付金額)	
	区分別金額	会員特典	件数	金額	金額	金額	件数	金額	件数			金額	件数		金額
A-1	3,340,000		3	750,000	3,205,000	135,000	3	750,000	3,205,000	30,000	780,000			3	780,000
A-2			9	1,585,000			9	1,585,000		80,000	1,665,000			9	1,665,000
A-3			4	280,000			4	280,000		30,000	310,000			4	310,000
A-4			5	240,000			5	240,000		40,000	280,000			5	280,000
A-5			7	350,000			7	350,000		70,000	420,000			7	420,000
B-1	1,740,000	770,000	2	400,000	1,830,000	▲ 90,000	2	400,000	1,830,000	20,000	420,000			2	420,000
B-2			5	385,000			5	385,000		10,000	395,000			5	395,000
B-3			15	635,000			15	635,000		30,000	665,000			15	665,000
B-4			9	410,000			9	410,000		60,000	470,000			9	470,000
C-1	1,060,000		9	450,000	915,000	145,000	9	450,000	915,000	90,000	540,000			9	540,000
C-2			16	465,000			16	465,000		60,000	525,000			16	525,000
D	240,000		13	260,000	260,000	▲ 20,000	13	260,000	260,000	50,000	310,000			13	310,000
E	100,000		0	0	0	100,000	0	0	0	0	0			0	0
F-1	150,000		0	0	0	150,000	0	0	0	0	0			0	0
F-2			0	0	0	0	0	0			0	0			0
G	1,000,000		21	1,050,000	1,050,000	▲ 50,000	21	1,050,000	1,050,000	210,000	1,260,000			21	1,260,000
合計	7,630,000	770,000	118	7,260,000	7,260,000	370,000	118	7,260,000	7,260,000	780,000	8,040,000	0	0	118	8,040,000
【G区分との重複申請内訳区分】							会員種別		件数		【助成金内訳】				
区分	件数	金額	区分計				第5種会員	46			市社協補助金より		4,151,000		
B-3	5	150,000	210,000				第6種会員	38			区社協善意銀行より		2,889,000		
B-4	2	60,000					第7種会員	3			そらまめ銀行より		1,000,000		
C-2	2	60,000	60,000				非会員	31			合計		8,040,000		
合計	9	270,000	270,000				計	118							
・第一回ボラセン運営委員会(25.5.20)にて審査・決定							<参考>平成24年度								
助成決定件数	118	助成決定額	8,040,000				助成決定件数	118	助成決定額	8,090,000					
助成件数	118	助成額	8,040,000				助成件数	118	助成額	8,090,000					
辞退件数	0	辞退金額	0				辞退件数	0	辞退金額	0					

【事務局】

- ・H24年度・25年度はE区分・F区分の申請がなかった。現在の条件では申請しづらいので、申請条件を見直したい。

→議論のもと、つぎの条件に見直すことで承認された。

E区分：他の助成金の対象にならなかった備品整備または緊急で修繕が必要なもののどちらかの条件に該当するもの。(但し、緊急性の判断は必要である)

F区分：申請締切を2月(備品整備助成と同じ締切)とする。

- ・今年度新規配分団体の活動状況を把握するため、9月から各団体活動時に訪問予定。あわせて、継続的に配分を行っている団体についても訪問し、寄付者への報告や善意銀行のPRに活用していく予定。

4. その他

ふれジョブ、サンタ講座、コミュニケーション講座の案内

次回日程：平成26年2月24日(月) 10:00~12:00

三谷委員長あいさつ

以上

担当：岡本・内藤
電話：504-5619